

●韓国日本語学会 第33回 国際学術発表大会

(2016年3月19日, 大韓民国 : ソウル)

報告者 : 早矢仕智子 (大真大学校, 主催者)

韓国日本語学会は1999年9月、韓国における日本語学の唯一の専門学会として発足し、2016年5月までにのべ33回の国際学術大会を開催、韓国研究財団の学会誌である『日本語学研究』を47集まで刊行している。会員数は700名を超え、2015年10月には新会長に姜錫祐(カトリック大)が就任し、新体制がスタートした。

今回は3月19日、ソウルのカトリック大学校で開催された第33回国際学術発表大会について報告を行う。「韓日対照研究をどう活用できるかー韓日対照研究活用方案の模索ー」をテーマに、企画講演には井上優氏(麗澤大学)を招聘した。講演題目「なぜ対照研究が必要か」と題された井上氏の講演は、時にご自身の体験をユーモアをまじえながら、日本語、韓国語だけではなく中国語へのアプローチも語られ、対照研究の本質的な意義をご教示いただけるものであった。講演は1時間、その後に行われた指定討論、一般会員からの質疑応答も1時間を越え、学会にふさわしい活発な論戦が繰り広げられ、会場全体が熱気あふれる場となった。「対照研究の議論や説明は、母語話者と非母語話者の両方に開かれたものでなければならない」という井上氏の言葉から言語学研究者としての氏の姿勢をあらためて感じ入ることができた。

加えて、全体会場において、韓国において求められている学術研究規定について、河炳學氏(カトリック大学校)による特別講演「人文学からみる研究倫理」を実施した。

一般発表は口頭発表を「意味・語彙論/統語・形態論/語用論/社会言語学/日本語史/日本語教育」の専門分野に分け、指定討論を2名が行うなど、討論を重視した内容を打ち出している。日本語関連学会では唯一実施しているポスター発表を含めて、言語学研究の専門学会としての在り方が定着してきたと自負している。今発表の中には「東日本大震災・福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事の語彙」、「日韓文化要素の比較による語彙のフレーム意味拡張」、「日韓謝罪行動」といった比較対照研究の他に、韓日共同研究「日本人の韓国・韓国人・韓国語に対する意識」ならびに「韓国人の日本・日本人・日本語に対する意識」の調査、分析の報告など、多くの聴衆が関心を示していた。当日は150名余りの参加があったが、韓国、日本、中国の研究者同士の交流も含め、実りのある一日となった。

韓国日本語学会は韓国内で研究活動をしているさまざまな専門研究グループや若手研究者の勉強会(韓国日本語研究会、音声学研究会、韓国OPI研究会、協働実践研究会、韓国継承日本語教育研究会、日韓コミュニケーション研究会)と正式に連繋協定を行うなど、韓国内の日本言語学の研究ネットワークの構築と支援を目指しながら、より開かれた質の高い学会としての活動を追求している。

最後になるが、学会のホームページ(<http://www.jlak.or.kr/>)をご覧ください。2016年9月24日には第34回国際学術発表大会(東国大学校)が開催される。より多くの関心をいただければ幸いである。